



# 東丘小だより

校長 河田 法士

令和5年(2023年)1月10日発行 第11号

| 学 年         | 1   | 2   | 3   | 4  | 5   | 6  | 計   |
|-------------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|
| 児童数(1/10現在) | 101 | 108 | 125 | 87 | 106 | 82 | 609 |



## 『もちあじ』が存分に出せる3学期&1年に!!

1月から3月は前の学年、4月から12月が今の学年と、1年間の中で新旧学年の両方をすごしています。その中には当然新学年のクラス替えという大きな変化があり、クラス替えほど大きくはなくても、月ごとや学期ごとに席替えや活動グループや班の編成などがあると思います。

同じ学年で過ごし、また同じクラスで過ごしていて、席が近くになったり活動するグループが一緒になったり、またこの新しい1年間にも盛りだくさんの出会いがあるのだと思います。

何日も一緒に過ごしてきた中でも、更に席などの距離が近くになって、色々一緒に話し合いや活動してみて、これまでに気付かなかった一面が見えることもあるかもしれません。

そんな一度学年として、またクラスの仲間としてすでに出会っている友だちとも『出会い直し』をしてほしいと思っています。

『いいところ探し』は、友だちだけではなく自分の良いところも探す素晴らしい活動ですが、よくないところ・苦手なところ探しは行いません。しかし、そんな良いところばかりじゃなく長短あるのも“人間らしさ”。

そもそも『もちあじ』とは？長所やいいところとは違う??

『もちあじ』はいいところもそうでないところも含めて『もちあじ』。もしかしたらその人の“らしさ”なのではないかと。

例えば、いつもはしっかり屋さんでクラスをリードしてくれるけど、稀にうっかりミスをする。その両方の面があることを周りが理解しているからこそ、本人はうっかりも安心して出せる、周りもうまく受け止めカバーすることができる。

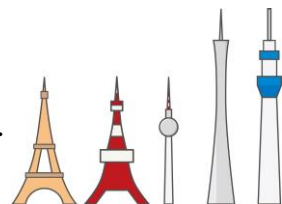
安心して過ごすことができる場所。そこには、必ずお互いの『もちあじ』を理解し、マイナス面すら否定ではなく受容・寛容しながら、時には叱咤激励もできるような雰囲気があるのではないかと思います。(学校HP～気まぐれ日記～8/26より)

われわれ教職員も、改めて子どもたちの『もちあじ』が安心して発揮できるような学校・教室づくりに取り組んでいきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

※われわれ教職員それぞれの『もちあじ』にもご理解をいただきながら、共働・協働・共同・協同をお願いいたします😊

## 2023年はどんな年になる?する??

いよいよ新年2023年の幕開けとなりました。数えて17日あった冬休みは、子どもたちにとってどのような時間になったでしょうか?



新年というと、まずは1年の目標などを立てることから始まったのではないかと思います。私も毎年心機一転・一念発起と称して目標を立てていますが、その達成度合いはというと、正直なところ…です。

そんな自分のことは棚上げにしつつ、今日の始業式では素知らぬ顔で『自分で立てた目標は、しっかりと努力をして必ず達成しましょう!』と、子どもたちに力強く伝えたあとだと思っています。

2学期の終業式が12月23日だったこともあり、24・25日のクリスマスではなく、「東京タワー完工の日」というところから「1年を振り返って」という話をしました。

1958年(昭和33年)のこの日、東京・芝公園に東京タワーが完成し、完工式が行われ、タワーの高さが333mでパリのエッフェル塔(次のオリンピック・パラリンピックの開催国)より13m高く、当時世界の高さの建造物となりました。

その後、世界一だった中国広州市の高さ600メートルの「広州塔」を東京スカイツリーが634m(この高さにしたのにも理由があるようです)で、2011年(平成23年)当時ではギネスワールドレコーズ社より世界一高いタワーとして認定されています。

しかし、再び世界に目を向けると、高さ比べだけなら2010年(平成22年)にビルを含む「世界一高い建物」としてはアラブ首長国連邦の「ブルジュ・ハリファ」が高さ828メートルで完成しています。

そして、現在ではさらに1000mを超えようとするタワーも建設中だといえます。(2021年完成予定も建設は一時中止になっているようです)つまり何の話なのかと言うと、記録は他の何かと比べたり、競争しながらどんどん更新され、それにはおそらくキリがないということ。

シンプルに高さ比べてたと言いましたが、決して高さだけの指標で比べるのではなく、人間なのでその他にもたくさんの要素があります。

勉強が得意な人は勉強で頑張り、運動が得意な人は運動で活躍する、音楽や絵などの芸術の分野で頑張っている人もいて、自分を発揮する舞台はそれぞれ多様であり、そもそも人と比べる必要は初めからないのかもしれない。

しかし、時に自分以外の誰かと比べ競争することも、厳しい社会の中では自分を頑張らせる大切な材料になることがあるかもしれません。

そんなことも全部含みながら、昨日より今日、そして明日の自分が自己ベストをどんどん更新していくような、『力強く前進する1年』に“自分がする”、2023年がそんな1年となるように願います。

(補)タワーとビルには規定があり、2023年現在も、世界一のタワーはスカイツリー、世界一のビルがブルジュ・ハリファになるようです。

## 2022年の大精算



2023年新しい年に!という話ばかりをしています、2022年に話を少し戻してのお願いがあります。

東丘小には不動の落とし物・忘れ物コーナーなるものが存在します。600人以上が過ごしている学校なので、多少の忘れ物や落とし物はあって当たり前だと思います。

すぐに気が付けばコーナーに来るものも減りますが、忘れたことや落としたことすら記憶から消えてしまったか、はたまた気が付いてすらないのか…、だから忘れ物・落とし物になっています。

忘れ物・落とし物を防ぐ最大の防御は『忘れない・落とさない』ですが、たとえ落としたとしても忘れたとしても持ち主に返ってくる最大の防御があります。それはやはり『名前を書くこと』です。

忘れ物や落とし物をしない人はたくさんいて、その逆も同じで忘れる・落とす人は一人でいくつもの品々をコーナーに寄せてくれています。教室レベルで言えば、鉛筆・消しゴムなどの文房具なども入れると、『なぜこんなに落としているのに困らないのか?』というほど相当な数になるところもあるようですが、それが不意に忘れた子などのお助けになっていることも事実なようで…。

名前があることでほとんどの物は持ち主のところに返っています。忘れ物や落とし物は、人を傷つけたり多大なる迷惑をかけるものではないので、忘れやすいのもよく落とすのも『もちあじ』だとして、何度も何度も…(以下省略)返すことがあります。

その都度『家の人と名前がある事にとにかく感謝を!』と指導しますが、本人に『困り感』がないとなかなか改善とはいきません。

物がなくて困るよりはある方が良く、家の人の多大なるフォローも感じる場面も多々ありますが、物がなくて困らせる方が、自立を促進することになります。(逆になくても困らないという奥義もあります😊)

大人の世界に目を移すと、令和3年の1年間で警察に届いたものだけで33億円以上のお金の落とし物があり、色々なところで忘れたり落としたものは現金を含め300万件超であるといえます。実は大人の方がすごい状態なのかもしれません。(その遺失物一つ一つに書類を作成しなければならない警察の方々のご苦勞も察しながら…😊)

忘れ物・落とし物も通学路のマナーとともに東丘小の永遠のテーマですが、家の人や自分につながる誰かの大切なお金で買ったものなら、一つでも多く持ち主に返ってほしいと思います。(せめて服などは…)



※1月中には処分させていただきますので、お心当たりがある場合は来校の上、直接確認でも大丈夫です。(本館1F中央廊下)